



ひまわりフシギ探偵団結成!?

ミステリーハンター 神崎慎一郎

スタッフ 大川速巳

撮影 スタッフ 奥村謙 (日本平夢テラスにて)

# ひまわり通信

Vol.21 2025.10.

“どんなに重い障害があっても地域で共に生きる社会”を目指して

発行：特定非営利活動法人 ひまわり事業団  
静岡障害者自立生活センター

〒422-8006 静岡市駿河区曲金 5-4-58  
TEL：054-288-6068 FAX：054-287-4922  
E-mail：himawari@scil.jp HP：https://www.scil.jp



編集：ひまわり事業団



# UFO は呼べるのか…

大川 速巳 ミステリーハンター  
奥村 譲 × 神崎慎一郎

超能力、心霊現象、UFO

私は昔から、科学では解明できない不思議な現象にヒソカに興味を抱いてきた。でも、こうしたことを職場で安易に話題にすると、「こいつ、ヘンな奴…」とドン引きされそうなので、これまでひたすら隠し通してきたのだ。

そんな折、「ヘルパーの仕事がしたい…」と入職してきたのがIさんだった。

実は、このIさん、ヘルパーというのは世を忍ぶ？ 仮の姿、本業は「静岡ミステリーハンター神崎慎一郎氏」であったのだ！

神崎氏は、静岡を中心に日本中のミステリー現象を探訪し、「ミステリーハンター神崎慎一郎の静岡ミステリーCAFÉ」というサイトを運営しつつ、地元のFMに出演したり、公民館で講座を開いたりしている。

そんな神崎氏いわく、「静岡の日本平は有名なUFOの目撃スポットですよ～」

この一言で、今回の企画は動き出した。

「よっしゃ！日本平でUFOを見てやろう！」

私と大川は、9月のとある日の夕刻、日本平の頂上付近の駐車場で、神崎氏を待った。

UFOならずとも、日本平には昔から色々怪奇な話が多い。

山腹を走るパークウェイの途中に、人家が何もないところに忽然と出現する「ユレーイ歩道橋」の話はその最たるものだ(今は取り払われております、念のため…)。

夕闇が迫る頃、真打、ミステリーハンター神崎氏登場！

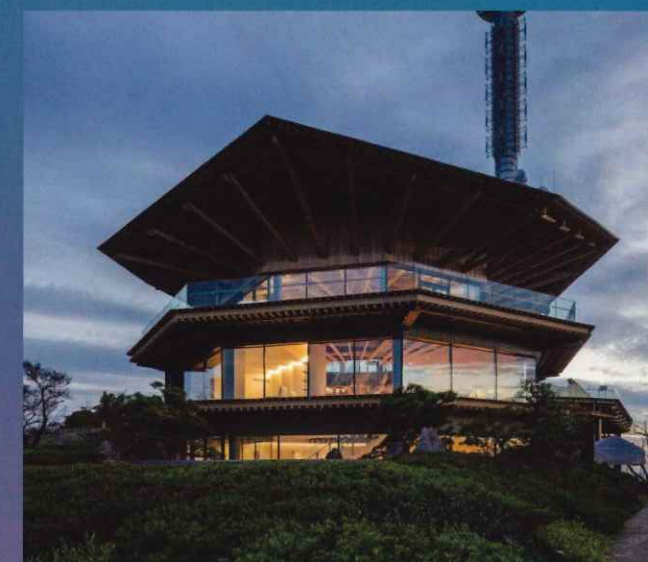
さあ、いよいよUFO見物の始まりだ。

…っと、その前に、まずは周辺のバリアフリーチェック(一応仕事ですからネ…)。



## 日本平展望台

静岡県にある標高約300mの丘陵地で、富士山や清水港、伊豆半島、南アルプスのパノラマビューを楽しむことができます。ここには「日本平夢テラス」という展望施設があり、365日24時間利用可能です。施設内には展示エリア、ラウンジスペース、展望フロアがあり、富士山の夜景も楽しめます。また、日本平は国の名勝地や県立自然公園に指定されていて歴史的な価値も持っています。



日本平夢テラス



屋外スロープ



駐車場



トイレ

### バリアフリーチェック

■「日本平夢テラス」は、3階建ての県産木材を使った斬新な建物(隈研吾設計)。1階は展示エリア、2階はカフェラウンジ、3階が展望エリアになっている。もちろんエレベーターがあり、1階には車いす対応トイレもある。3階の展望エリアはそのまま屋外の円形の展望デッキに直結している。

■「日本平夢テラス」の建物は、土曜日以外は17時で閉まってしまうが、屋外の展望デッキだけは24時間オープン。ここへは屋外のスロープで直接上ることが可能。

■駐車場から展望施設「日本平夢テラス」へと続く長い坂にはスロープがあり、車いすでのアプローチが可能。(かなり急だが)

■駐車場には車いすスペースあり

■駐車場の脇には車いす対応のユニバーサルトイレあり



ミステリーハンター

# 神崎 慎一郎 登場!

こんにちは 神崎慎一郎です。

今回は、皆さんとお話をさせていただきます。  
よろしくお願いします。

私は静岡で 15 年ほどラジオをやっています。FM-hi やマリンパル、G-Sky、Radio F、FM-halo、SBS などでお話をさせていただきました。今は Radio Lush で話をさせていただいています。

なので、名前を聞いたことのある方もいらっしゃると思います。今はもう無くなってしまいましたが、七間町の「スノド」という喫茶店で、皆さんに話をさせていただいていました。また、静岡市の市民講座やアイセル 21 でも講座をさせていただきましたし、アースカレッジでも話をさせていただきました。

私の事をご存じないという方は、インターネットで神崎慎一郎と検索してみてください。ただし、私は約 35 年近くミステリーハンターをやっていますが、某番組のキャスターとは違いますが悪しからず。



ミステリーハンター 神崎慎一郎の  
静岡ミステリーCAFE



ミステリーと言っても広いジャンルがありますが、ミステリー小説の分野ではありません。

しかし、「悠久の彼方に」と「蒼き深淵の果てに」という小説も私が執筆しております(非公開)。

私は不思議なことは何でも首を突っ込みます。エジプトのピラミッド、ナスカの地上絵、イースター島のモアイ、マチュピチュなどは当たり前ですが、UFO、心霊、エイリアン、妖精、UMA、妖怪の類、SF、宇宙、古代史などなんでもお話ができます。

古代史は得意で、アイセル 21 で 70 人近くの人を集めて 2 日間、3 時間ずつの講義を 2 回ほど行いました。「私の講義は眠くなるので寝たい人はご自由に！」と言いましたが、寝ている人はいませんでした。学校の先生やかなり歴史に詳しい人も参加していますのでとてもやりづらいのですが、いろんな人に自分の話ができるのは楽しいですよ。

面白いことに「質問は受けます」といっても手を上げる方はかなりの強者で「歴史の道場破り」ばかりですが、まあでもね。負けませんよ。私もただ座っている人に 6 時間も講義をしていませんので。一応、その手の本は一通り読んでおります。

私はミステリーを縦割りに解釈するのではなく横に切っていきます。もともとわからないことなので縦に切って解釈してもつまらないばかりか、意味はちんぷんかんぷんです。

例えば UFO です。Unidentified Flying Object (アンアイデンティファイド・フライング・オブジェクト)、英国語の略で日本語では「未確認飛行物体」を言います。だから、これを宇宙人の乗り物とは言っていないのです。

UFO、実は意外と簡単に見つけることができます。特に夜は発光物体ですので見つけやすいんです。見たことないよという人いますよね。普段から天を見上げて歩いている人はいませんから 1 回では無理ですが、何回か根気よく星空観測していれば見つけられます。

実はこの UFO 一昔前までは「絶対いない派」と「いる派」に分かれていました。

しかし、2020 年にアメリカ国防省(ペンタゴン)がこの飛行物体 UFO の存在を認めてしまいました。これによって長年続いた論争に終止符がうたれました。テレビタックルなどで、いない派の中心人物の大槻教授などは、ばかばかしくなって、まったくと言ってよいほどテレビに出なくなりましたよね。火のないところには煙は立たないということです。

何がほんとで、何が嘘なのかは本当に宇宙人が UFO に乗って私たちの前に現れるまで分かりませんが、UFO つまり未確認飛行物体が存在することは確かではあるものの、その乗り物に乗っている何者かが、エイリアンなのか、未来人なのか、はたまた地底人なのかは定かではないということです。ただ、その乗り物が他国の科学者が容易に作れるテクノロジーでもないことも確かであり、もし宇宙人や未来人なら時空を超える技術を持っているということになります。

それは、アインシュタインの相対性理論の崩壊を意味します。まさにワープが現実のものになってきます。その時、人類はどのような対応がとれるのでしょうか？彼らは一体何者なのでしょうか？目的は？もしかしたら MIB や X ファイルなどが本当のことかもしれないよ。

皆さんの目で確かめてみてください。またミステリーの話を楽しみましょう。

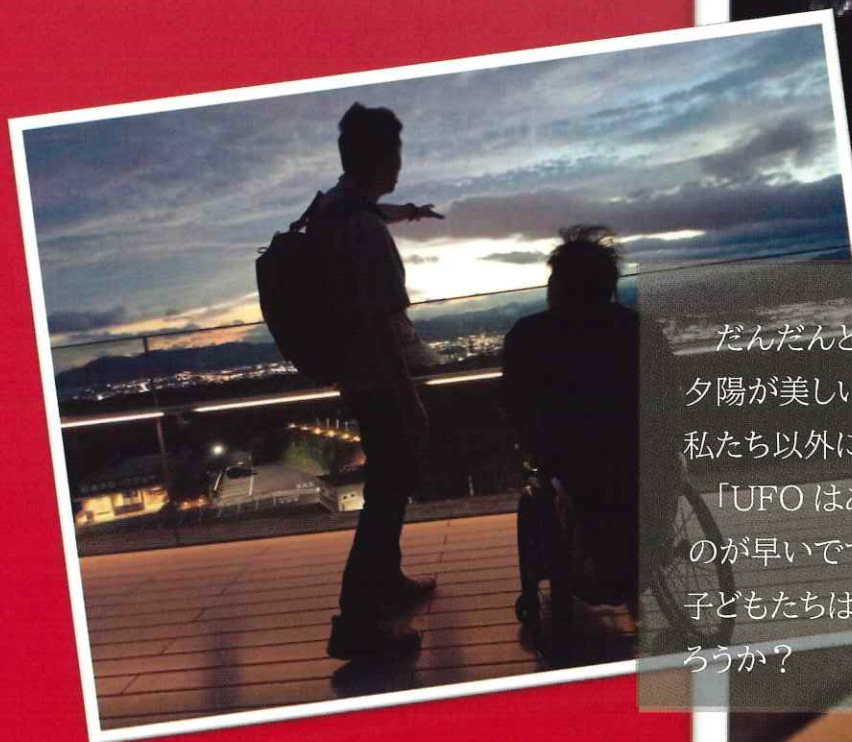


# 「ベントラー、ベントラー、スペースピープル、スペースピープル、 こちら地球の〇〇です。宇宙人、応答願います」



私たちが訪れたのは、平日の 18 時過ぎ。すでに建物は閉まっておりエレベーターは使えなかったため、屋外スロープで展望デッキまで登った(一部、車いすでは走行しづらい砂利道あり)。

ドーナツ状に円形になった展望デッキからは、雄大な駿河湾と静岡中心部の街並みを眺めることができた。



だんだんと陽が傾いていく中、家々の明かりがひとつひとつ灯されていく。夕陽が美しい。とてもロマンチックな場所だ。

私たち以外にも、カップルや親子連れ、外国人の姿がチラホラ。

「UFO はあの方角によく出現するんですよ～。特に子どもたちは、発見するのが早いですよね…」と、伊豆半島の方角を指さす神崎氏。

子どもたちは心が純真なので、UFO や宇宙人と波長がピッタリ合いやすいのだろうか？

しばらくすると、あたりはすっかり闇に閉ざされてしまった。ところで私は、昔テレビの UFO 特番でこんな光景を見たことがある。

広い野原で、大勢の人たちが星空に向かって並び立ち、皆一様に両手を宙に向けて「ベントラ～！ベントラ～！」と呪文のような言葉を唱えているのだ。

調べてみると、「ベントラー」という言葉の創設者は、1960年代にテレパシーで宇宙人と交信したジョージ・ヴァン・タッセルという人物らしい。

その後、日本の UFO 愛好家団体である「宇宙友好協会」が「ベントラーとは宇宙船を呼び出す呪文である」と紹介したため、日本でもイッキにこの言葉が広まった…とのこと。

私は、両手を宙に向けるのはさすがに気恥ずかしかったので、ただ、ベントラ～！ベントラ～！と心の中で唱え続けた。

…とその時、夜空をまっすぐに横切る謎の物体が！  
おお～っ！ UFO か！と一瞬身構えたが、「あれは、飛行機ですね～」神崎氏の一言にガッカリ。こんなカンジで、小一時間も夜空を見上げていただろうか。残念ながらこの夜、UFO は、私たちの前に姿を現してはくれなかった。

たぶん、私と大川の心が、子ども時代の純真さを失い、すっかり濁りきってしまったからに違いない(トホホ…)

でも、こんなに長い時間夜空を見上げていたのは、フラれたあの子と星空を眺めたあの時以来 40 年ぶりのことだな…

それにしても、静岡の夜景も捨てたもんじゃなないね。

文：奥村 謙



# 真夏の夜の夢

## — 僕の臨死体験 —

文:大川速巳

絵:奥村ユズル

### 1. あれは三途の川…?

僕は明日から忙しくなる仕事の前に、バイクで峠を攻めようと、国道1号線を西に向かって走っていた。ふと見るとガソリンが残り少ない。峠を攻める前に給油をしよう。それに、昨日は給料日(当時勤めていた会社の給料日は毎月10日だった)だ。せっかくだからハイオクを入れよう。ハイオクガソリンの性能を体感してみようじゃないか…

1989年(平成元年)8月11日深夜、僕の記憶はここまでで途切れる。

その後、国道から峠に向かう交差点で僕は事故った。曲がり切れずに反対側の工場の鉄門に激突し瀕死の重傷を負った。(この時、僕は頸損デビュー)

事故の様子は自分自身ではまったく記憶がなく、救急車を呼んでくれた目撃者の人たちの話として後日警察官が教えてくれて、その時に僕は自分が本当に事故ったんだと自覚した。

今回は、事故った時の詳細ではなく、事故から意識が戻るまでの4日間(厳密に言うと意識が戻る瞬間の出来事)の話である。

今でもはっきりとあの時見た景色は覚えている。

その景色の始まりは、僕がバイクごと川に落ちるところから始まった。どういう経緯で落ちたのか分からないが、とにかくバイクごと川に落ちた。流れが速く、結構深い。とてもバイクは引き上げられず自分だけ必死に泳ぎ向こう岸にたどり着いた。何とか向こう岸にたどり着き、岸に上がると目の前には見渡す限りの草原が広がっていた。草の深さは膝までの高さで深め。ただ果てしなく草原だった。ふと顔を上げるとはるか遠くに大きな門らしきものが見え、僕はその大きな門に向かって歩き出した。

が…遠い。かなり遠い。歩けど歩けど近づかない。おまけに草深い草原。やっとの思いでその大きな門にたどり着いたころにはもう疲労困憊。体力の限界だった。門の中を覗くと、中は何か楽しそうなところで、避暑地の別荘のような、でもみんなが楽しんでいる遊園地のようなところだった。それを見て僕は「あ～やっとなど休める。」と思い、中へ入ろうとしたその時、門柱の陰から人影が現れた。

### 2-3. 門番? ガードマン?

その人影は警察官のような、ガードマンのような制服を着た恰幅の良いおじさん。口ひげを蓄えていて、かなり威圧的な感じ。そのおじさんは、中に入ろうとする僕を呼び止め僕の前に立ちふさがり僕にこう言った。「勝手に入ってはだめだ。名前を言え」と。僕は名前を言うと、その恰幅の良い威圧的なおじさんは何やら名簿らしきものを取り出しページをめくって調べ始めた。すべてのページを見終わって、そのおじさんはさらに威圧的にこう言った。「名前がない。連絡がきてない」、「ここには入れない。帰れ」と。延々と何もな草原をひたすら歩き、やっとの思いでたどり着いてももう疲労困憊だし、とにかく眠りたい僕は、何とか中に入れてくれるよう粘り交渉したが、恰幅の良い威圧的なおじさんは頑として聞き入れてくれず「ダメだ、入れない。連絡がきていない」の一点張り。

結構な時間粘ったが入れず、僕は追い返されてしまった。

仕方なく僕は疲労困憊の身体を引きずり来た道を引き返すことになった。

### 4. バイクは僕の代わりに天国へ

また果てしない草原をひたすら歩く。見渡す限りの草原で、方向感覚も方位もままならないような広さであったが、迷いなく歩いていた。最初に落ちた川の、落ちた場所まで迷いなく一直線に。

どれだけ歩いたか分からないが、落ちた川の元の場所まで何とか戻ってくることができた。

ふと川の流れに目をやると、僕のバイクが流されていくのが見えた。上等なパーツも付けていたし、何よりタイヤをピレリーのスポーツコン

パウンドに履き替えたばかりの愛車である。「あ～俺のバイクが…俺の GPZ-NINJA があ…」茫然自失でしゃがみ込みヘルメットを脱いだ(ここで気づいたが、僕はここまでずっとヘルメットを被ったままだった)。ヘルメットを脱いだ瞬間、意識が戻り現実世界に帰ってきた。目の前に医者と看護師、母親と姉の顔が見えた。この瞬間は鮮明に覚えているが、何を言っていたかは覚えていない。ただ、かなり大声で叫んでいて、母親と姉が泣きじゃくっていたのは今でもはっきりと思い出せる。この時、母親と姉は医者から「意識が戻るかどうか分からないが、もし意識が戻っても脳挫傷もあるからまともに話せる状態であるか分からない」と言われていたようで、僕の意識が戻った瞬間に喜びと同時に凄惨不安だったようだ。だが、目を覚ました僕の最初の一言が「あー…タバコ吸いてえ」だったので、『良かった、まともだ』と思い、と同時に腰砕けになった…と、後から聞いた。

こうして僕は生き延びたわけだが、後日『あの川が三途の川だとしたら、流されていったバイクは俺の代わりに天国に行ったのかもな…』と、ふと思った。

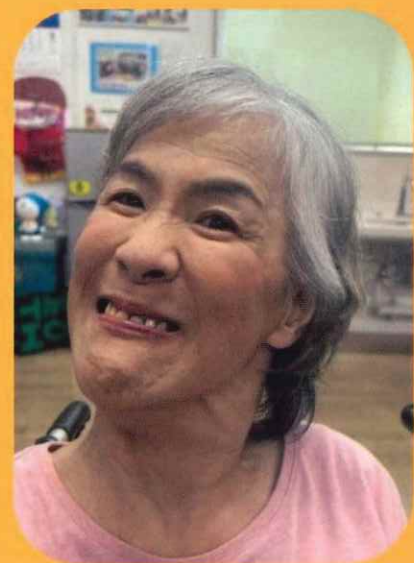
36年前の真夏の夜の夢、僕の臨死体験でした。





さ に い で 「美容の日」 開催しました

8月18日、20日にさ に い でネイルやメイクを楽しみました。今回、いつもイベントなどでお世話になっている前田さんと、紹介をいただいた大村さんをお願いをして、さ に い の皆さんを变身させていただきました。美容の日以降、しばらくは利用者さん自らメイクをしてきたり、髪の毛をセットしてきたりとおしゃれに目覚めた人も…!



なかなか普段経験できない事を前田さんと大村さんが優しく施術してくれたおかげで素敵な思い出となりました。私は眉毛、髪の毛のスタイリング、爪を整えてもらいました。家族やほかの利用者さんから褒めてもらって、照れくさいけど嬉しかったです。少しだけおしゃれに興味湧くようになりました。

執筆者 脇本琢巳

4コマまんが



作：佐野匡

アイスをお父さんに食べられてプンプンしていた、生活介護さ に い の萩海陽です。当初は、自分の好きなアイスベスト3を発表しようかと思いましたが、まだまだ私には有名度が足りないとツッコまれたので、みんなの好きなアイスも聞いてみようかなと思い、総選挙を開催しました！ちなみに私のベスト3は、1位 スーパーカップのチョコ味、2位 MOWのチョコ味、3位 牧場しばりの生キャラメル味です。



1位 ハーゲンダッツ

10票

事業団の中では、バニラ、抹茶、マカダミアナッツの順で票が多かったです。ハーゲンダッツは、1961年に大人も満足できる「高品質なアイスクリームを作りたい」と創始者ルーベン・マタスによってアメリカ・ニューヨークで誕生。ハーゲンダッツはちょっぴり高めですが、大人気でした。



2位 スーパーカップ

7票

事業団の中では、バニラ、チョコ、抹茶の順で票が多かったです。スーパーカップは2024年で30周年となりました。みんなに愛されているアイス。さすが私の大好きなアイス！ちなみに著者の推しているお笑い芸人ダウンタウンの浜ちゃんも、スーパーカップのアイスが好きらしいです。



3位 パルム

5票

票を入れた人たちに話を聞いてみました。「いつも冷蔵庫に常備している」「ちょっと贅沢な味が好き」「単純にチョコレートが好き」と話していました。「大人が満足できるシンプルでちょっと贅沢なチョコパーアイス」を目指して作られたそうです。企業の狙い通りですね！

ランキングに入らなかったアイスたち

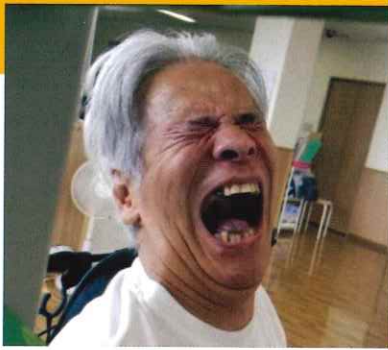
雪見だいふく・ピノ・板チョコアイス・アイスの実・チョコモナカジャンボ・Mow・ブリュレアイス・ガリガリくん・ガツンとみかん・セブンイレブンのマンゴーアイスパー・コーヒーフロート・スイカパー・爽・しろくま・パピコ・セブンイレブンのメロンパー・サーティーワン・あいすまんじゅう・宝石箱・きな粉餅アイス など

総勢65名が答えてくれました



1位のハーゲンダッツをみんなで食べてみました。味の感想を聞いてみると、ゆいさんがほっぺに手を当てて美味しいと話してくれました。そこに踊りながら近づいてきた伊達さんが、マカダミアナッツの美味しさを急に語り出しました。いつも通りのさ に い でした笑





# とおるのトーク

文：橋本 徹

清水港の打ち上げ花火、去年までは20年来行っていたが、今年はさすがの猛暑続きに負けて行かなかった。っていうか行けなかった。花火が8月3日に、それから3日経って、6日には41.5℃を静岡で観測。チョー驚いたぞ。いくら気候変動とはいえ40℃超えは年寄りにはこたえます。ただ、今日のように普通の夏日は平気になった。猛暑日続きで多少は慣れたみたいだよ。

処暑を過ぎれば、トンボに散歩へ行くと会えるな。トンボって飛びながら交尾をするんですね。すごい器用な奴だなあ。こんな風に二十四節気の夏至とか処暑もそれなりの目安にはなりますよね。

7月の参院選で与党が、特に自民党が、見事にぼろ負けし、留飲が下がった。やはり、不在者投票でもとりあえず選挙は行かなきゃな。日本国憲法で決めた国民の権利ですからね。

都議選や参院選で参政党が日本人ファーストと言いながら議席を伸ばしたけれど、公約を読むと超右翼だぞ、まるでネオナチスじゃないですか。とても危ない匂いがするぞ。うさんくさあいな。

ところで市長の学歴詐称を発端に静岡県の伊東市が一躍有名に…。あの市長は、謝ることを知らないですね。職員は苦情処理に追われ議会は田久保劇場に乗っ取られる。これでは市民感覚との乖離があまりすぎだよ。

美形な友のメール曰く、最初に認めるべきところは認めて謝罪すれば、こんなに大きな墓穴を掘らなくて済んだでしょうにね。だよねえ、いっそのことさ、有権者の2/3でリコールしちゃえばいいのに。そういえば、兵庫の知事はどうしたんだろう？と思う。パワハラにおねだり疑惑であの知事も結構お騒がせしたよね。皆さん覚えてますか？パワハラは認めて、あとは逃げ得に感じました。

さて9月、コンビニでは早くも肉まんを売り始めた。まだ食べる気にはならないが、そんな季節ですね。秋刀魚もカキフライも出始めた。去年はアピタでサンマやアユの塩焼きが買えた。なので、中田周辺や登呂がアピタの廃業でマジ不便。これから、冬物が必要になる。GUや無印良品での買い物は駅まで行くんだ。春にはアピタの跡地にイオンがオープンすると聞くので楽しみである。

ところで、パレスチナを国家として承認する国が増えた。イスラエルのジェノサイドは人間ができることじゃないよな。イスラエルを孤立させるしかないけれど、日本はパレスチナの承認をしていない、情けないです。平和を祈ってコラムを終わる。

【編集後記】10月になり、やっと涼しくなると期待していたのに、残暑が続き、衣替えのタイミングに悩んでいたら涼しいを通り越して一気に寒くなった静岡です。つい先日、富士山の初冠雪の便りがありました。数日前まで暑かったのに…。さて、UFOや臨死体験をみなさんは信じますか？  
今回の企画に対し、正直引かれる人が多いのかと思いきや、意外にも「私も一緒にUFOを見に行きたかった！」という前向きな声が多く、今回は残念ながらUFOを見ることは叶いませんでしたが、反響が多かったので早くもリベンジを検討中です。  
ちなみに、こういう企画は私もキライではありません。私はUFOに遭遇したことはありませんが、私のまわりには生死を彷徨う体験をした友人がけっこういて、共通して出てくるのは定番の「お花畑」や「三途の川」。そんな話を聞くと信じずにはいられなくなるのです。同僚の大川からはじめて臨死体験の話聞いた時は正直リアクションに困りましたが、実はこの話には更なるおもしろエピソードがあるんです。それはまたどこかで…。

機関誌編集委員長：鈴木香奈

障害を持つ人の生活を支援する  
ヘルパー  
募集中  
お気軽に  
お電話ください  
054-287-1230